

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270200141		
法人名	社会福祉法人 柚子の会		
事業所名	グループホーム リブ花見川		
所在地	千葉県花見川区花見川3-29-201		
自己評価作成日	令和5年6月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和5年6月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・職員と入居者との関係ではなく相手の望む関係作りをし、安らぎの中に居心地の良い空間作り、買い物、散歩に出掛け地域の方と触れ合い、一日楽しかったと思って頂ける様支援します。・花見川団地の中心でもある商店街に隣接しており京成八千代台駅よりバスで約13分随時運行し、ご家族の方も大変来やすい便利なホームです。・建物内は居室、食堂及び談話室、広々した廊下があり、天候に影響されず適度な運動が可能です。・一昨年、リフォームを行いキッチン、フロアー共に家庭的で暖かみのある落ち着いた雰囲気の中、皆さんゆったりと過ごされています。低料金になっており、生活保護の方も入居可能です。また、看取りも行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

生活・人生・生命の質を唱えた「QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を基盤とした尊厳と自立の確立」を法人の理念とし、その理念に基づいた職員の心得や介護の心を掲げている。利用者が充実感・満足感を持って社会生活を送ることが出来ているか、利用者が笑顔で安心できるホームを目指し、常に利用者に対等な関係を保ち、尊厳を守り利用者の意見を聞きながら対応し、全職員が一丸となってサービスの提供を行っている。当ホームは、京成電鉄八千代台駅からバスで約13分の花見川団地中央部の商店街に隣接し、近くに交番、スーパーマーケット、コミュニティセンター、公園等があり、家族が訪問しやすい便利な所に位置している。建物はリフォームして間もなく、エル字型の数十メートルある長く広い廊下は、天候に影響されない歩行訓練通路になっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送りにて常に共有している	法人の理念である「QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を基盤とした尊厳と自立の確立」を施設内に掲示し、毎月のユニット会議や申し送り時に唱和し、常に利用者に対等な関係を保ち、尊厳を守り利用者の意見を聞きながら対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出を控えていたが、徐々にお花見や散歩を行っており、地域とのつながりを持っている。	現在はコロナ禍で中止となっているが、以前は団地の中の商店街の行事(売り出し等)でフライドポテトや洋服・雑貨等のフリーマーケットを出店したり、団地で行う敬老会等で公民館や広場で子ども達と一緒に遊んだりもした。また、ボランティア団体が来て大正琴やフラダンスを披露してくれたが、現在は中断状態になっている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流に努めているが、実際、認知症がどこまで理解されているかはわからない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が行っている。職員は周知している	運営推進会議は年4回行っているが、コロナ禍に於いて会議を自粛し、作成した資料をメンバーである団地の会長、民生委員、あんしんケアセンターやNPO法人等に送付している。中には行事活動等の様子が分かるように写真添付があるとイメージ出来る等の意見も出てきている。	
5	(4)	○市町村との連携  2023/6/23	管理者が市担当者と利用者の件で報告や相談をしている	区の高齢者福祉課等へおむつやパットの支給申請手続きや介護保険の更新手続き等で訪問するが、生活保護者に関する事など電話で相談することが多い。あんしんケアセンターは、毎月数回来訪し空き室状況等の情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていないが状況によってはご家族の理解の下、可能性は否めない	2人の管理者と各ユニットの代表者で作る身体拘束・虐待対策委員会は年4回実施し、全員参加で研修を行っている。例えば、転倒リスクのある方に対して「動かないで!」「動いちゃダメでしょ!」と言わないで、「どうしましたか?」と尋ねながら素早くその方の下へ駆け寄る。などの事例を基にした研修なども行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修やご家族、職員に対しての環境やメンタルケアにも気をつける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、制度を知っている職員も少ない。今後は制度を理解した上で支援して行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、管理者が十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍ではあるが、徐々に運営推進会議を開催している。会議で出た意見や要望は、今後の運営に反映させている。	コロナ禍ではあるがオミクロン株が流行する迄は、衝立を立てて15分位の面会は行っていた。家族からの要望として利用者アンケートのものもあるが、職員の異動についての報告が欲しいとか、電話では面会はいつでものかとか、散歩をして欲しいとの要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議で話し合い、反映、改善している	職員の意見や提案は、日常業務の中で多く発生している。例えば、むせ込む方に対して、おかげにした方が良いとの提案で、食事形態が変わったとか、寝たきりの方の入浴方法について、リクライニングにすると本人が楽そうだ、のような提案が日常的に出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従事者それぞれが向上心を持ち、意見、行動ができる様な環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修や資格取得の機会を積極的に設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍の中で同業者との交流は難しい。今後、リモートによる勉強会も行っていきたいと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態を把握して本人が安心して生活できるような情報集め支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いの中でご家族の思い、不安を聞き、信頼関係を築ける様、支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と接し家族との話し合いの中で困っている事や、要望などを何が必要か見極めて、把握しサービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせ、できる事は一緒にやっていたく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子、状態を定期的に写真や手紙に書き送付したり、電話にて伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外部との交流は難しいが、思い出話をしたり、傾聴等で利用者との交流を大切にしている	コロナ禍で外出支援がままならない中で、家族と花火大会に行ったり、正月に一泊で家に帰った方もいる。テレビで利用者の出身地の画面や食べ物の画面が出た時は、思い出話に花が咲いたり、兄弟姉妹の話になったりして、皆さんで昔を偲びあっていることが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度、状態を見極め、互いに助け合ったり話が出来る様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用後家族が気軽に相談できるような環境作りに努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をお聞きし、出来るだけ希望に沿った生活が過ごせるように支援している	家族から、「家のお父さんはお酒が好きなので、飲ませてください」とお酒を持ってこられ、夕方の食事の時に晩酌として添えてあげると本人は大変喜んでいました。日頃の様子と違って元気がない顔をされていた方には、居室に連れていき休んでもらった後は、元気を取り戻した。普段から何気ない変化を読み取り、対応することに注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、または家族より生活環境を聞き、それに近い生活が出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体、精神状況を一日過ごした内容を記録に残し全職員が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心した生活が送れるようにご本人、ご家族、関係者を含め話し合いを持ち、計画作成をしている	歩行が困難になってきても、自分で歩きたいという方には、手擦りを使った立ち上がり訓練をケアプランに取組み、自分の力で出来るように心掛けている。ケアプランの見直しは最終的にユニット会議で行われており、職員からの意見は申し送りに記載されていて参考にしている。基本的には、各人の役割を決めて生活のリズムを作ってもらうように注意を払っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートに記入し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望によりその時々ニーズに対応出来る様臨機応変に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現在地域との交流は、徐々にだが出てきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医も当初は主治医が決まっていたが、現在の医療が行われていたが、現在主治医が決まっておらず、毎回違った医師が来られる為、施設側との連携が難しい所があり、対応に疑問視する所あり。	循環器系や骨粗しょう症等で入居前からかかっている利用者は年1回の検査に家族が病院に連れて行っている。内科に関しては提携医に統一して一元管理を図り、月2回の訪問診療で健康管理がされている。また、週1回の訪問看護師制度もあり何かあれば看護師より医師に連絡を取ってもらう形が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年より訪問看護が週一で入り、日常の情報共有に努め緊急時の対応も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った時には医師等に状態を聞き、医師、家族とのカンファレンスには必ず同席させて頂き、協力し合える環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になってきた時点で医師、家族、職員を交え今後の保身、希望、施設で提供可能なこと、またできない事を明確にし家族の希望に沿えるよう努めている	今年度、看取り実績として2件あった。重症化した場合のホームの対応は、入居時に「重度化対応・終末期ケア対応方針」等で説明し契約を取り交している。実際に重度化してきた場合、例えば水分の呑み込みが悪くなってきた状況を見て、医師に状況説明をして指示を仰ぐことにしている。進捗状況によって医師から家族に説明があり、ホーム内での看取りか入院となるか方向づけられる。家族からは、ホームでの看取りを希望するのが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、利用者、職員ともに避難訓練時に行い備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、避難経路の確認や利用者が避難出来る様、全職員に指導している。	コロナ禍により、消防訓練は現在行われていない。ただし、日頃より緊急連絡網が掲示板に貼られ緊急対応が出来るよう周知徹底している。災害対策マニュアルは法人本部で作成されたものが各ユニットに置かれ日頃から閲覧できるようになっている。避難場所として団地内の広場が指定されているが、A棟で火災発生の場合、B棟への誘導とユニット間の移動を先ず行うように計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者を敬う気持ちを忘れず、プライドを傷つけないよう、言葉掛けに配慮し対応している	ホームで暮らす方たちは、人生の先輩であり敬意を払った言葉遣いや接し方に気を付けている。例えば、名前を呼ぶ時は「さん」付けて、トイレ使用时にはカーテンを締めてあげる。声掛けでも、「～してよ」「～してください」といった上から目線ではなく、「～をお願いしますか」といったことに常日頃注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中で希望、要望を伺い自己決定できるように促す		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて、常に臨機応変に対応出来る様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、整容に気を付け個人の趣味などに対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で買い物には一緒に出掛けることはできないが職員が毎回手作りで料理を提供している。食後は一緒に後片付けを行っている	内部で食事を作っており、「あーいい匂い」「今日は何を作っているのですか」等、食事前から既に食事に入り込む環境が整い始めている。ユニット間では食事内容の違いがあるが、おやつ時間帯に別のユニットの方が訪問され、一緒に食べることもあり、交流を楽しんでいる。季節ごとに行事食も行われており、納涼会では、リビングに屋台を作りお祭り気分を味わった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量をチェックし、利用者の状態を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯、口腔内の清潔を保つように個人に合わせてケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し個人の能力にあった支援を行う。自立支援をしている	出来る限り人としてトイレで排泄することが一番であるということを念頭に、排泄チェック表を基にトイレ誘導に励んでいる。現在、寝たきりの人もおり、同じく排泄表で管理しながらおむつを交換し、不快とならないように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄記録を下に食事のバランス水分量など個々の便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、体調や希望に合わせて入浴している。年々重度化して来る利用者に対しても、気持ち良く入浴して頂ける様に新たな入浴設備の導入を考えている。	寝たきりの人にも体をさっぱりしてもらおうと、リクライニングのイスを使っての入浴をする工夫も見られる。また、入浴後のスキンケアをすることで、皮膚の感覚を感じ取ってもらえるようなことも行われている。寒い季節などは、脱衣所を温めて寒くならないよう気を付け、ゆっくりと入浴を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体の状態に合わせ横になる時間を設けるなどして安心して気持ちよく過ごして頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能知り、変化があった時は主治医に報告、連絡をし、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物を畳んで頂く等、無理をしない範囲で出来る方に行っている。また気分転換に他棟へ散歩に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で現在、外出は中止となっている	コロナ禍により外出計画としては中止しているが、初詣で近くの花鳥神社に出かけたり、団地内の桜ロードでの花見、近く公園へのピクニック等は行っている。以前は毎日周辺の散歩をしていたが、現在はホームの長い廊下を使った歩行訓練や気分転換に脳トレ、ぬり絵、折り紙等に替えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本施設で管理を行い、利用者や家族の希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症があるので利用者では難しいが職員が電話や手紙で状況を報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて季節の飾りつけや花や緑を飾り明るい空間にて過ごして頂く	時間・季節感覚が薄らいでいく利用者に対し、季節に合った折り紙を作り飾り物にして極力季節を感じ取る環境づくりに努めている。一日の大半を過ごすリビングでは車イスを使う人、自立歩行のできる人が行きかうため、動線を確保する意味からも余分な物を置かないように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に考慮し椅子やテーブルを配置して気分により場所を変えて過ごせる様に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の居心地良い部屋作りをして頂きたく今まで使用されていた品をお持ちいただいている	寝たきりの方も多いため、ベッドを窓側に置き外の景色が見れるように配慮している。入居前からの馴染みの物を持ち込むことで、本人の情緒安定にも繋がっている。転倒しやすい、あるいは徘徊しやすい方には、安全面の意味から家族の了解を得て、センサーを室内に取り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の動線を確保し、安全に過ごせるよう配置している。また、目印になるようにラベルなどを使い自立した生活が出来る様工夫している		